

がんサバイバーとしての代替医療

会場 清英（仙台市）

私は、がんサバイバーである。ホルモン治療と並行して代替医療を受けている者として筆を執らせていただいた。

一昨年春に仙台へ引っ越してきた。声のかすれと逆流性食道炎、そして喘息の治療のために朴澤耳鼻咽喉科に通院して間もなく朴澤先生の講演を聞く機会があった。受付で関連書籍の販売をしていて、帯津良一先生の『希望の医学 がんになっても諦めない』というタイトルに興味を覚えて購入した。まだがんと告知を受ける前であるのに買ったのは不思議な縁である。

その後、前立腺がんで骨に転移していることがわかった。私の家内は食道がんで首の骨に転移して半年の闘病の末に亡くなった。最後まで気丈にがんと闘った。もし私のがんになったら自分の体の中のがんという異物があること自体、耐えられないと思った。だから私のがんと告知を受けた時には酷くショックだった。私も半年くらいで死んでしまうという思いに捕らわれた。

そんな時にふと手にしたのが帯津先生の本であった。がんになっても諦めなくてもいいんだと思えるようになり、いざとなれば帯津三敬病院の門を叩けば何とかかなと思えたことはとても救いとなった。

また朴澤耳鼻咽喉科に併設の「Tree of Life」にて代替医療を実施していることを知り、ホメオパシー・ヨガ・直傳靈気・鍼灸を受けることとした。高校生の時に鍼灸治療を受けたり大学生の時にはインド人のグル(先生)からヨガを習ったりしていたので、その良さを知っていた。その時のヨガの先生よりも今回の方が分かりやすく親しみやすかった。直傳靈気は日本古来の治療法だそうで“手当て”と通じるものを感じると共に、とても心地よく感じた。それぞれの良さを身をもって体験できて、これなら前向きにがんと向き合っていけると思えたことは大きな収穫であった。

総合病院の主治医からは転移もあり手術は出来ない

こと、また完治は無理と伝えられた。朴澤先生から「がんには勝とうと思わないで、共存すればいいのですよ。」と言われ、とても気が楽になった。がんと闘って負ければ死ぬんだという恐れから、引き分けにすれば生き長らえることができるんだという思いになれたことは何よりもよかった。

現代医療と代替医療を並行して受けることが私にとって最善と思えた。主治医は通院のたびに昼食もとらないで診察を一生懸命して頭が下がる。また「どんな疑問も困ったことについても、いつでも聞いて下さい。」と言われていて心強い。しかし総合病院の場合は、どうしても待ち時間が長くなり診察時間が短くなるのは、やむを得ないと思う。

一方、ホメオパシーでは診察で十分な時間をかけて問診してくれる。3千種類ものレメディから一番私に合ったものを時間をかけて探してくれる。再診の都度じっくり問診して、その時々症状に合わせて必要であればレメディの変更も行う。

鍼灸では問診や触診などで、その時の症状に合わせて鍼・灸を併用して施術してもらっている。普通、病院へ行くと負のオーラを感じるものであるが、「Tree of Life」ではプラスの輝くオーラを感じて、通院するのが楽しみである。代替医療は病気だけではなく心身を含めて丸ごと、その人の本来あるべき状態にしてくれるものだということを自ら体感している。

帯津先生の講演を仙台で一度伺ったが、先生のお顔を見ているだけで安心感を得るのは私一人ではないと思う。安心感と信頼感は医療の根本のような気がする。現代医療以外にも頼れる医療があるというのは心強い。しかも代替医療には様々な選択肢があるというのは、がんなどの病気でも諦めなくていい、前向きに生きてゆけるんだという思いをもたらしてくれる。

そのような医療に巡り合えたことを、がんサバイバーとして心より感謝している。